

チュートリアル課題 あざのできた佐野俊彦さん

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/233

2004年度 Block. 5

課題 No. 2

「あざのできた佐野俊彦さん」



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

2004-B5-2

S-38-4002 あざのできた佐野俊彦さん

シートの1枚目

佐野俊彦さんは32歳の男性である。生来健康であったが、3日前に両下腿に小さな赤いあざが出ているのに気づいた。昨日大腿部に大きな紫色のあざがあるのに気づき、近くの皮膚科を受診した。そこで血液検査を受けたが、検査結果はWBC 21900/ μ l、RBC 243×10^4 / μ l、Hb 7.6g/dl、Ht 24.8%、血小板 0.5×10^4 / μ lであった。その結果から、血液内科を受診するよう勧められ今日来院した。

【抽出を期待する事項】

出血斑

出血傾向

白血球増多

あざのできた佐野俊彦さん

シート2

家族歴) 血縁の家族で、出血性疾患のある者はない。

【あざのできた場所】

顔面

手足

その他

佐野さんは、緊急入院となった。

入院時現症

全身所見

体温 38.5℃、呼吸数22/分、脈拍 86/分 整、血圧136/72 mmHg。
四肢、体幹部に点状出血、紫斑を認める。

局所所見

眼瞼結膜 貧血を認める。

眼球結膜 黄疸を認めない。

口腔 咽頭に発赤を認める。

胸部 心音、呼吸音 清。

腹部 肝脾を触知しない。

【検査する予定の項目】
播種性血管内凝血症検査

シート4.

入院時検査所見

尿 蛋白 (-)、糖 (-)

血算

赤血球 $220 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 、Hb 6.9g/dl、Ht 22.1%、網赤血球 0.1 %、
白血球 $25700 / \mu\text{l}$ (好中球 4%、好酸球 1%、単球 2%、リンパ球
15%、異常細胞 78%)、血小板 $0.3 \times 10^4 / \mu\text{l}$ 、

凝固系検査

PT 19.5秒 (基準対照 11.3)、APTT 36.2 秒 (基準対照32.2)、
フィブリノゲン 58mg/dl (基準200-400)、血清FDP 122 ng/m
(基準 10以下)

血液生化学

T-P 6.9g/dl、Alb 3.8 g/dl、尿素窒素 12 mg/dl (基準8~20)、クレ
アチニン 0.9 mg/dl (基準0.8-1.3)、尿酸 3.7 mg/dl (基準3.0~7.0)、
AST 25 IU/l (基準40以下)、ALT 19IU/l (基準35以下)、LDH 220
IU/l (基準 176-353)
Na 137 mEq/l (基準135~147)、 K 3.6mEq/l (基準3.5~5.0)、
Cl 103 mEq/l (基準99~106)、
CRP 5.3 mg/dl (基準 0.3以下)

【抽出を期待する事項】

播種性血管内凝固症候群

あざのできた佐野俊彦さん

シート5

ただちに骨髄検査を行ったところ、骨髄では資料のような細胞が85%を占めていた。またその際同時に行った染色体検査の結果が後日戻り、染色体異常があったことがわかった。

【抽出を期待する事項】

急性前骨髄球性白血病
染色体異常

【戻ること期待する抽出】

骨髄液

骨髄細胞塗片

骨髄細胞固定液

骨髄細胞固定液

2004-B5-2

あざのできた佐野俊彦さん

シート6

入院時発熱があり、感染症の疑いがあるとのことで抗菌剤の点滴が開始された。また、佐野俊彦さんは、受持医から病気の診断や治療方針について説明を受けた。入院後ビタミン剤の誘導体を内服していた。皮膚の発疹は徐々に良くなってきた。佐野さんはその後骨髄検査を再度受け、主治医から病気はかなりよくなっているという説明を受けた。しかしこのままだと再発するため、抗癌剤による治療を受けることが必要なことを説明された。同時に抗がん剤の副作用についての説明も、本人が受けた。抗癌剤の副作用は、吐き気、脱毛などが出現した。

【抽出を期待する事項】

抗菌剤

分化誘導療法

インフォームドコンセント

化学療法とその副作用